

哲学堂七十七場の修復・復元

保存

哲学堂七十七場を構成する建造物、石像物、地象等のうち、劣化や毀損が見られるものについては順次、修復・復元等を進める。

保存活用計画における「保存管理の分類と考え方」

日常管理の範囲

再整備事業の対象

保守・保全

破損や劣化を防ぎ、現状を維持する。

復旧・修理

破損や劣化した箇所を原状に戻す。

修復

名勝の価値に影響を与えている要因を取り除くことにより、破損劣化を未然に防ぐとともに、保存すべき本来あるべき姿を取り戻して価値の向上を図る。

復元

消失した施設を信憑性のある資料や写真などをもとに本来あるべき姿を取り戻し、価値の創出を図る。

主な修復・復元対象と実施時期

修復・復元を行う七十七場の配置と概略

● 常識門の修復

短期

- 劣化が顕著に進行し、全体的な修復が必要である。
- 聯が判読不能のため、資料調査のうえ修復する。



● 六賢台の修復

短期

- 劣化が顕著に進行し、全体的な修復が必要である。
- 構造診断を実施し、安全性の向上等を図る。
- シロアリによる蟻害の修復及び予防措置を講じる。



● 霊明閣（鬼神窟）の修復

短期

- 構造診断を実施し、集会室としての利用も加味して、安全性の向上等を図る。
- 建具の歪みや戸袋・雨戸の劣化等を修復する。



● 天狗松、狸燈、鬼燈の復元

短～中期

＜天狗松（ひと際高くそびえる松）＞

- 園内に自生するアカマツを周辺環境を整えたうえで移植し、数十年かけ育ててゆく。



＜狸燈・鬼燈＞



表面が風化し、激しい劣化が見られるため、その保存を目的として複製を作成する。

● 石積（造化澗・独断峡・心理崖）の修復

短期

- 樹木の根の伸長による破損や基礎下の土壌の洗堀等が生じているため、調査により安全性等を確認したうえで、修復等を行う。



● 文化財の保存・記録等

＜防火対策＞

- 消火のための給水経路の老朽化に対応するため、配管の更新を行う。

＜所蔵物の保存＞

- 現在、古建築物内に収蔵しているものや、今後新たに発生する保存の必要がある資料等の保存場所について、今後検討してゆく。

＜現状の記録保全＞

- 石造物等、屋外に設置されている文化財については将来の劣化に備え、適切な復元が行えるよう形状等を記録しておく。